



GRIPS文化政策ケース・シリーズ

沖縄市民小劇場あしびなー¹

はじめに

沖縄市では、戦後から本土復帰にいたるまでの歴史の中で、地域性の強い琉球文化を元に、米国がもたらした現代文化など多種多様な文化を受容し、独特なチャンプルー文化をはぐくんできた。チャンプルーとは、庶民料理から派生した言葉で「ごちやまぜ」を意味する。沖縄県内においても最も多くの芸能関係者を擁する沖縄市が、この文化芸能を発展させていく施設として整備したのが、1998年に設置された「沖縄市民小劇場あしびなー」である。この劇場は、沖縄市中心市街地の活性化のために新たに建設された商業集積施設の中につくられ、その誘客施設としての性格も有している。「あしびなー」は、公募による名称であり、「遊び庭」と書くことからわかるように、文化・芸能関係者の要望に応えるだけでなく、広く市民が遊べるような施設であることを目指して活動してきた。



写真：沖縄市民小劇場あしびなー

2. 沖縄市民小劇場あしびなーの設立経緯

1974年までコザ市と呼ばれていた沖縄市は、2007年現在人口約13万人、沖縄本島中央部に位置し、那覇市に次ぐ沖縄第二の都市であり、巨大な米軍基地を擁する基地のまちでもある。沖縄市は、空港のある那覇市と北部ホテル群をつなぐ沖縄自動車道路が縦断しており、アクセスは良好であるが、滞留観光は少なく、また市内の完全失業率は県内でも高く、特に若年失業率の高さ（約16.4%）は深刻である²。失業率の高さは地場産業の不在とも関連しており、沖縄市は企業誘致を含め、雇用対策に取り組んでいる。

¹ 本稿は、垣内恵美子（本学文化政策プログラム教授）が2009年3月9日に沖縄市民小劇場あしびなーに対して行ったインタビューをもとに構成されている。

² <http://www.city.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=70>

この中で、沖縄市では、中心街の活性化をめざし、パークアベニューと商業集積施設「コリンザ」及びその最上階に設けられた沖縄市民小劇場あしびなーを誘客装置として整備してきた。これは同時に充実した常設の劇場施設に対する芸能関係者の強い要望に答えるものでもあった。あしびなーは、座席数 290 と小さいながら、毎日のように民謡や芝居、舞踊などの舞台や発表会があり、稼働率はきわめて高く（約 80%）、市民が気軽に使える常設舞台として定着している。一方、あしびなーが位置する第 3 セクターの商業施設「コリンザ」は、やはり公募で名づけられ、コザ（沖縄市の旧名）の街にリンリン鐘がなるという意味ときくが、多くのテナントが退出する中で、経営的には苦戦を強いられている。ただ、近年コールセンターが入ったことにより、やや持ち直しが見られる。

3. あしびなーの組織及び活動概要

舞台面積 245 m²、客席 290 席、約 18 億円で設置されたあしびなーは、現在（財）沖縄市公共施設管理公社が指定管理者として管理運営を行っている。この管理公社は沖縄市が出資し、沖縄市の公共施設全般（体育、文化、公園、福祉など）を管理運営しているが、このうち、文化施設部門に関しては、小劇場（あしびなー）のほかに、沖縄市民会館担当が配置されている。あしびなーには、（株）ACO沖縄とプロデューサー契約を結んで、芸術的な側面を強化している。

あしびなーは、2007 年度において利用稼働日数 340 日のうち 291 日が利用に供され、稼働率はきわめて高い。入場者数は約 5 万 2 千人で、一日あたり入場者は約 180 人である（資料 2 参照）。利用状況は、一般利用 158 日、沖縄市利用が 78 日、管理公社利用が 55 日となっており、市民の利用が多い。あしびなーは、ピアノの発表会をはじめとしたアマチュア活動や、落語などの古典芸能、映画の上映³、沖縄芝居の上映などを多様な文化活動の拠点として活動してきており、市民の認知度も高い。また、同市で活動する文化協会は、そのほとんどがあしびなーで公演を行っている。

あしびなーは、小さな施設ながら、文化庁の拠点形成事業助成団体として継続的に支援を受けており、その自主事業に特色がある。文化庁助成 3 年目には、拠点形成事業助成の成果を目に見える形にすべく、国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ（以下「キジムナー・フェスタ」という）が始まった。キジムナー・フェスタは、教育文化の向上、国際交流の推進、交流人口の拡大、地域のイメージアップさらには新たな産業への期待といった様々な目的をもち、2009 年で 5 年目を迎える。

このキジムナー・フェスタには、あしびなーの自主事業に当てられる拠点形成事業の助成のうち、7～8 割を集中し、創造性とともに、発信力を強化した。キジムナー・フェスタは、現在あしびなーの事業を中心としつつも、民間からの企画や NPO 団体その他事業も

³ 同市には映画館がないため、劇場での上映が盛んである。

同時期に公演することで、拡大してきている。同フェスタの誘客（入場者）は、2005年が1万5千人から2007年度には3万人以上に倍増、リピーターも多く、固定客をつかんだといえる。特に演劇初心者に対する貴重な演劇経験の機会を提供しており、市内のみならず県内各地、そしてまだ少数ではあるが県外からも誘客している⁴。

4. あしびなーの財政状況

あしびなーの施設利用料（施設利用料、付属設備利用料、冷房利用料）は、約870万円であり、そのほかの雑収入を含め合計約920万円の収入を得ている。一方、指定管理の運営委託料は2007年度で約4,300万円であり、支出は、需要費（舞台制作費）が約1,800万円、委託料（施設設備管理費）約2,800万円など総額約4,800万円で運営されている。（資料2参照）

5. 今後の課題

劇場本体は記述の通り高稼働率を維持しているが、商業集積施設コリンザの中の劇場であり、商業施設そのものの経営の衰退による影響が懸念される。北谷などほかの地区で大きな商業娯楽地区ができたことにより、商業的に競合したコリンザでは、店舗の撤退がとまらず、運命共同体であるあしびなーとしては、協同での集客イベントなどの企画実施も今後積極的に取り組む必要がある⁵。ただ、最近コールセンターがコリンザの中で稼働し始め、人の流れが変わるに期待している。

あしびなーの事業の中で特に大きな実績を有しているキジムナー・フェスタは、行政的にも評価が高く、今後少なくとも3年は続く予定である。あしびなーの活動だけでなく、フェスタを通じて、各種サービスやチケット販売など、地域商店街との連携が行われるようになり、また、駐車場を無料でサービスし、滞留時間を延ばすような試みがなされるようになった。担当者の間では商店街、地域住民の意識の変化が進んだことが実感されており、今後より連携を密にすることで、地域、経済への貢献が進むことが期待されている。あしびなーのみならず、その他の施設、たとえば市民会館や、近年整備されたミュージックタウンを含めた徒歩圏の商圈を中心に、フェスタの時期だけでなく、通年的にあしびなーの客を街中に回遊させる仕組みも検討され始めた。

ただ、2009年度からは、指定管理団体が公社から別のNPOに移行するため、今後の方向性には必ずしも明らかでない部分が残されている。

⁴ 垣内恵美子・奥山忠裕(2009)「地域における演劇フェスティバルの持続的運営に関する一考察～沖縄市キジムナーフェスタの事例～」日本地域政策学会 Vol17,pp17-24

⁵ インタビュー

参考資料

- ・ 資料 1 施設の利用状況
- ・ 資料 2 財政状況
- ・ 沖縄市民小劇場あしびなー公式 URL
: <http://www02.bbc.city.okinawa.okinawa.jp/oki/gyousei/GOAS/> (2009年3月24日現在)
- ・ 条例 URL
: <http://www02.bbc.city.okinawa.okinawa.jp/reiki/act/print/print110000304.htm>
(2009年3月24日現在)

【資料1 施設の利用状況（2007年度）】

利用日数

| 利用可能日数 | 利用実績 | 稼働率 | 前年比 |
|--------|------|-------|---------------|
| 340日 | 291日 | 85.6% | +4.25% (+12日) |

入場者数

| | 総入場者数 | 劇場利用時の1日あたりの入場者数 |
|--------|---------|------------------|
| 2007年度 | 52,438人 | 180.2人 |
| 前年比 | +1,183人 | -3.51人 |

利用団体内訳

| | 一般利用 | 沖縄市利用 | 管理公社利用 |
|--------|------|-------|--------|
| 2007年度 | 158日 | 78日 | 55日 |
| 前年比 | -10日 | -23日 | +42日 |

ジャンル別利用状況

| | 音楽 | 演劇 | 舞踊 | 映画 | 伝統芸能 | 等 | 大会・式典 | 会・研修会 | 講演・講習 | 発表会 | 塾・教室等 | ツブ | ワークショップ | 込み・リハ | その他・仕 |
|--------|------|-----|-----|------|------|------|-------|-------|-------|------|-------|----|---------|-------|-------|
| 2007年度 | 55日 | 43日 | 10日 | 73日 | 10日 | 4日 | 28日 | 29日 | 4日 | 39日 | | | | | |
| 前年比 | -10日 | -1日 | +5日 | +39日 | ±0日 | -10日 | +2日 | +4日 | ±0日 | -27日 | | | | | |

【資料2 財政状況（2007年度）】

施設使用料

(単位：円)

| | 施設利用料、附属設備利用料、冷房利用料 | その他 | 合計 |
|--------|---------------------|---------|-----------|
| 2007年度 | 8,680,100 | 496,288 | 9,176,388 |

管理運営委託料

| 年度 | 指定管理料（委託料） | 備考 |
|--------|------------|-------|
| 2007年度 | 42,702千円 | 指定管理料 |
| 2006年度 | 43,094千円 | 指定管理料 |
| 2005年度 | 51,352千円 | 委託料 |

支出

(単位：円)

| | 旅費 | 需用費 | 役務費 | 委託料 | 使用料及び賃借料 | 原材料費 | 公課費 | 備品購入費 | 総務管理費 | その他経費 | 合計 |
|--------|-------|-----------|----------|------------|----------|------|---------|---------|---------|---------|------------|
| 2007年度 | 5,440 | 1,765,115 | 2,12,301 | 28,454,835 | 308,280 | 0 | 166,000 | 791,153 | 287,361 | 149,581 | 48,025,066 |